ちくせい CHIKUSEI 魅力散策MAP②

～歴史と文化の街めぐり編～

商都「下館」の面影をぶらり

下館地域は江戸時代から明治にかけ真岡木綿の集積地として栄え、鬼怒川の舟運で江戸に直結していました。明治以降は国鉄水戸線下館駅に関東鉄道・真岡鐵道が乗入れ、交通の要所として、また北関東の商都として発展、この交通網と木綿を活かした足袋底は全国の90%の生産を占め11社の卸問屋が競う商業地区を形成、「関東の大阪」と称されました。現在でも見世蔵や洋館・土蔵が多数残り当時の面影を見ることができます。その賑わいは芸術文化を育み、文化勲章受章者の板谷波山・森田茂を輩出、他にも青木繁など多くの文化人が誕生しました。

青木繁（あおきしげる）

明治15年(1882年)7月に福岡県久留米市に生まれ、後に東京美術学校西洋画科に入学。近代日本洋画壇の天才画家と称賛され、その作品は情感豊かで独創的なものであり、代表作は現在、国の重要文化財に指定されている。明治38年(1905年)8月には筑西市川島に滞在し、地元住民をモデルに神話を題材とした作品を制作。現在は下館駅前や稲荷町商店街にまちかど美術館として4枚のセラミックアートが設置されている。

❸「青木 繁」《南側》

青木繁陶板画（あおきしげるとうばんが）（セラミックアート）

❶「海の幸」(1904年)《道路側》

❶「大穴牟知命（おおなむちのみこと）」(1905年)《歩道側》

❷「わだつみのいろこの宮」(1907年)

❸「日本武尊（やまとたける）」(1906年)《道路側》

真岡鐵道SL

年間を通して毎週土日と祝日に、下館～茂木間を1日1往復運行。汽笛を鳴らして走る勇壮な姿と、ゆったりとした旅情を満喫できる。

■問い合わせ先
真岡鐵道:0285-84-2911

一木歯科医院（いちきしかいいん）

大正11年(1922年)に建てられた木造鉄網コンクリート2階建ての建物。金網を張った上にコンクリートを厚く塗る「鉄網コンクリート仕上げ」は、全国的にも珍しく貴重なものといわれている。国登録有形文化財。

下館音頭歌碑（しもだておんどかひ）

詩人で戦後の日本を代表する作詞家である西条八十（さいじょうやそ）は、昭和19(1944)年から3年間下館に疎開していた。戦後まもなく「地元に明るさと希望を与える歌を」との願いに応える形で中山晋平の未発表曲に詞をつけた「下館音頭」を完成。この歌碑が、郷土の書家・浅香鉄心の筆によって刻まれ、今も高台から市街地を見守る場所に残されている。

▲下館音頭歌碑

▲下館盆踊り大会　毎年8/15・16開催

下館における伝統的な見世蔵と洋館建築

明治から大正にかけて下館地域の商業の中心地として栄えた地域であり、現在も見世蔵、洋館、土蔵など当時の商家の建物が多く残っている。

荒川家住宅（あらかわけじゅうたく）（荒七）（あらしち）

旧国道50号線沿いに、アールデコ調の洋館と見世蔵の2棟が並んで建っているのが特徴。明治から昭和初期にかけての建築様式を伝える貴重な建物である。国登録有形文化財。(北側にある付属屋・内蔵・石蔵の3棟を含む。)

荒川家住宅（あらかわけじゅうたく）（荒為）（あらため）

初代 為吉の名にちなんだ「荒為」を屋号とする明治・大正・昭和の時代を通して商都下館を代表する卸問屋。モダンな洋間も備えた近代和風建築の主屋、明治時代後期の重厚な土蔵造を今に伝える旧見世蔵や土蔵など、各時代を反映したデザインが取り入れられた建物である。国登録有形文化財。

人面付壺形土器（じんめんつきつぼがたどき）

市内女方（おざかた）地区から出土した弥生時代の土器。壺の首部分に人の顔が装飾された土器は全国的にも珍しいもの。駅前の歩道橋上には実物の2倍の巨大レプリカがある。実物は東京国立博物館に収蔵。

板谷波山墓所（いたやはざん）(平成23年整備)

下館駅（しもだてえき）

JR水戸線と真岡鐵道真岡線、関東鉄道常総線の3路線が乗り入れる共同使用駅となっている。路線が開通した明治ー大正以降、流通や交通の拠点として、下館地区の発展を支えた。

加波山事件志士の墓（かばさんじけんしし）

明治17(1884)年、激化する自由民権運動の中で、若き運動家たちが加波山に立てこもった「加波山事件」。志士のうち、平尾八十吉、富松正安、保多駒吉、玉水嘉一の墓碑が並ぶ。市指定文化財。

二宮金次郎像

二宮金次郎(尊徳)1787年～1856年

江戸時代末期に小田原藩真岡桜町領の再建を果たし、その後、報徳仕法※1により飢餓に苦しむ近隣の下館藩をはじめ全国600の村々の農村復興に尽力した。その証として日光今市報徳二宮神社の墓所に下館藩から寄進された石灯篭がある。また、尊徳の教えを学ぶ筑西市全ての小中学校や市内各所に金次郎像が、道の駅グランテラス筑西には尊徳廻村之像※2がそれぞれ建立されている。

※1「報徳仕法」とは尊徳独自の農法・農村改良法・財政復興策
※2「尊徳廻村之像」とは農村復興で活躍していた時期の姿を象った大人の二宮像

鮭の遡上（さけのそじょう）

毎年秋には川を力強く遡る鮭の姿が見られる。市街地の色々な場所でこのような鮭の姿を見られるのは非常に珍しく、勤行川沿いを散策しながら鮭の姿を楽しむことができる。

鮭ビューポイントマーク

見頃:11月上旬～12月上旬
場所:勤行川沿い各所